

第3回 設計ワークショップ[まとめ]

2019 6/8 土

Design

図面と模型をみよう

●第3回ワークショップの流れ

- 1.はじめに・前回のおさらい
- 2.これまでのワークショップ意見を反映した図面と模型について
- 3.グループワーク…図書館の使い方を考えよう
- 4.発表
- 5.まとめ
- 6.さいごに

●これまでのワークショップ意見を反映した図面と模型について

前2回のワークショップで、敷地周辺とのつながりや図書館の機能やスペースについて意見交換してきました。その内容を受け、配布資料の図面と模型にてまとめた案を説明しました。

※配布資料1~4を参照

●グループワーク発表内容（抜粋）

図書館を实际使う立場の市民として、どのように使うかをイメージしながら意見を出し合い、各グループごとに発表を行いました。

グループA 静寂系・日常系・広場系のゾーン特性に合わせて必要な機能やサービスとスペースについて意見ができました

- ・静寂系の空間では、個人生活の課題について相談や調べ物ができるよう、周りに気兼ねなく勉強（自習）する空間、新聞を広げる・たくさんの資料を上げたりできる机がほしい。
- ・日常系の空間では、市民活動のスペース、ぷらっと立ち寄る場所として、ちょっとした打ち合せやおしゃべりがしたい。
- ・広場系の空間では、地域の課題を話し合う場所、映画会、講演会、コンサートができるような空間がほしい。
- ・子どものお話し会をする場所は仕切られて、集中できる場所にしたい。



グループB 多様なイベントの開催や多様な学習環境をイメージし、どのようなサービスや空間がほしいかという観点で意見ができました

- ・多様なイベントが開催できるよう、開放的な空間から閉鎖的な空間など様々な空間があるとよい。
- ・イベントコーディネーターなど、サポートをしてくれる職員がいるとよい。
- ・イベントに合わせたテーマ配架など、図書館との相乗効果が得られるように。
- ・多様な学習環境として、様々な学習スタイルに応じた家具や、開館時間外の朝、夜にもラーニングコモンスの開放があるとよい。
- ・閉架書庫の本の見える化で借りる人を増やす、「開かれた書庫」がほしい。



グループC 従来の図書館サービスを基本とし、高齢者や子どもへの具体的なサービス、大人数でのイベントをイメージした意見ができました

- ・他都市の図書館との連携やレファレンス機能の充実を図ることで図書館に来れば個人の調べもの、知りたいことがわかるようにしたい。
- ・本を探す、本と出合う楽しみを市民間で共有できる図書館にしたい。
- ・静かな空間で、高齢者がゆったりと過ごせたり、オーディオ文庫など、どんな人でも本を楽しめる機能やスペースがほしい。
- ・絵本の原画展など図書に関連した展示スペースがほしい。
- ・映画上映会など大人数でイベントする場所や設備を設けてほしい。
- ・絵画のレプリカなど、生活が豊かになるものの貸出をしてほしい。



グループD 多様な人数での集まりを想定した活動へのサポートや公園・レンガ坂とのつながりを意識した意見ができました

- ・静寂系では、仕事ができる仕切られたスペースやそれらができるwi-fi、プリンタなどの設備や、調べ物をサポートしてくれる司書やデスクがほしい。
- ・日常系では、目的がない人も来ることができる場所でもよいし、貸し本棚や展示・映像投影など、地域や個人の情報を発信できるスペースがあるとよい。
- ・お話し室は赤ちゃんは開放的な空間で、幼児～中学生は仕切られた空間がよい。
- ・広場系では、イベントができる場所（一箱古本市など）がほしい。
- ・レンガ坂・公園と図書館とのつながりに配慮してほしい。
- ・（配布資料のゾーニング案について）公園と図書館が直接対峙して分かれているような印象を受けたので、公園と図書館の中間領域を大切にしてほしい。



グループE 個人の課題や地域課題を解決するような活動を想定し、その活動に合わせたスペースや機能について意見ができました

- ・静寂系ゾーンでは、起業のための資料集め、病気・法律の悩み解決をしたり地域資料・データベースを活用した研究・課題解決ができるとよい。
- ・日常系ゾーンでは、高校生や高齢者のお金のかからない居場所としたり、5~6人で集まって勉強会や読書会などができるスペースがほしい。
- ・広場系ゾーンでは、子どもとおはなし会や読書テラスで読書したり、地域グループの討議・学習、打合せ等に利用できるスペースがほしい。
- ・その他、絵本の原画や布絵本の展示会開催や、起業のヒントとなる講師のプレゼンテーションや短時間のプレゼンテーションを行う空間があるとよい。



グループF 「課題解決」「活動・交流」「運営・ソフト」の観点で意見をグルーピングし、どのような機能やサービスが必要かをまとめました

- ・課題解決として、本を探すだけでなく生活での困ったことの解決方法を見つけられたり、友達をつくるなどの多様な活動ができるような図書館だとよい。
- ・活動・交流として、ボランティアの情報交換のできるスペースや、グループワークを行い、地域の環境地図や問題解決地図をつくらせたり、トークセッションができるとよい。
- ・クラシックなどの生演奏を聞きながら読書したい。公園へ遊びに来て図書館でひとやすみしたい。
- ・運営・ソフトでは、図書館のホームページの充実や、専用アプリ等が出来たらよい。



●まとめ（抜粋）

常世田 良 立命館大学文学部教授にまとめとして総括コメントをいただきました

- ・多摩市民は、図書館をよく使っているのだから、図書館に対する理解が高いと改めて感じた。
- ・図書館は開館してからが始まりで、使いながら「図書館を育てていく」ことになる。
- ・市民の方々は、高い理解度を活かして、エヴァンジェリスト（導いていく人）として、知的ボランティアをしていく覚悟をもってほしい。
- ・現状の計画では、従来型の図書館のサービスやそれに伴うスペースに心配はいらぬが、本日の発表にもでていた、単なるサークル活動ではなく、地域活動を行う多様なスペースをつくらせたい。
- ・また、ラーニングコモンスのスペースが狭い印象もあるので、書架の間にラーニングコモンスをつくり、その部分を市民が利用していくことで図書館の運営も空間も育てていくことが大切である。
- ・2階は広場系開架ゾーン、1階は基本的に日常系開架ゾーンで、奥に行くほど静寂系に近づくといった、空間にグラデーションのある図書館になりそうである。
- ・広場系だけど日常系に近い空間や、日常系だけど静寂系に近い空間をアメーバ的に自由に使うことで、機能やサービスもなじんできるとよい。
- ・高度なデータベースを使いこなしたり、ラーニングコモンスで地域の課題を解決していくきっかけをつくるなど、従来の図書館サービス+αの使い方ができる図書館になると思われる。

